

# 2-8 番外編：刻み系アレンジ

## 刻み系アレンジとは？

リズム感のあるフレーズやパターンを刻むアレンジスタイル。

ストリングスは、元来メロディを演奏することを得意としているが、一方でザクザクとリズムを刻むことにも長けている。

その特徴を最大限に活かし、パーカッシブな刻みを用いたフレーズでリズム感を演出するのがこの手法。

シンプルにリズムを刻むだけでも、タイトで歯切れの良い印象が得られる。

刻み系アレンジ

49 50 51 52 53 54 55 56 4

2B

Vln. I *mf* *f*

Vln. II *mf* *f*

Vla. *mf* *f*

Vc. *mf* *f*

57 58 59 60 61 62 63 64

2C

Vln. I *f* *ff*

Vln. II *f* *ff*

Vla. *f* *ff*

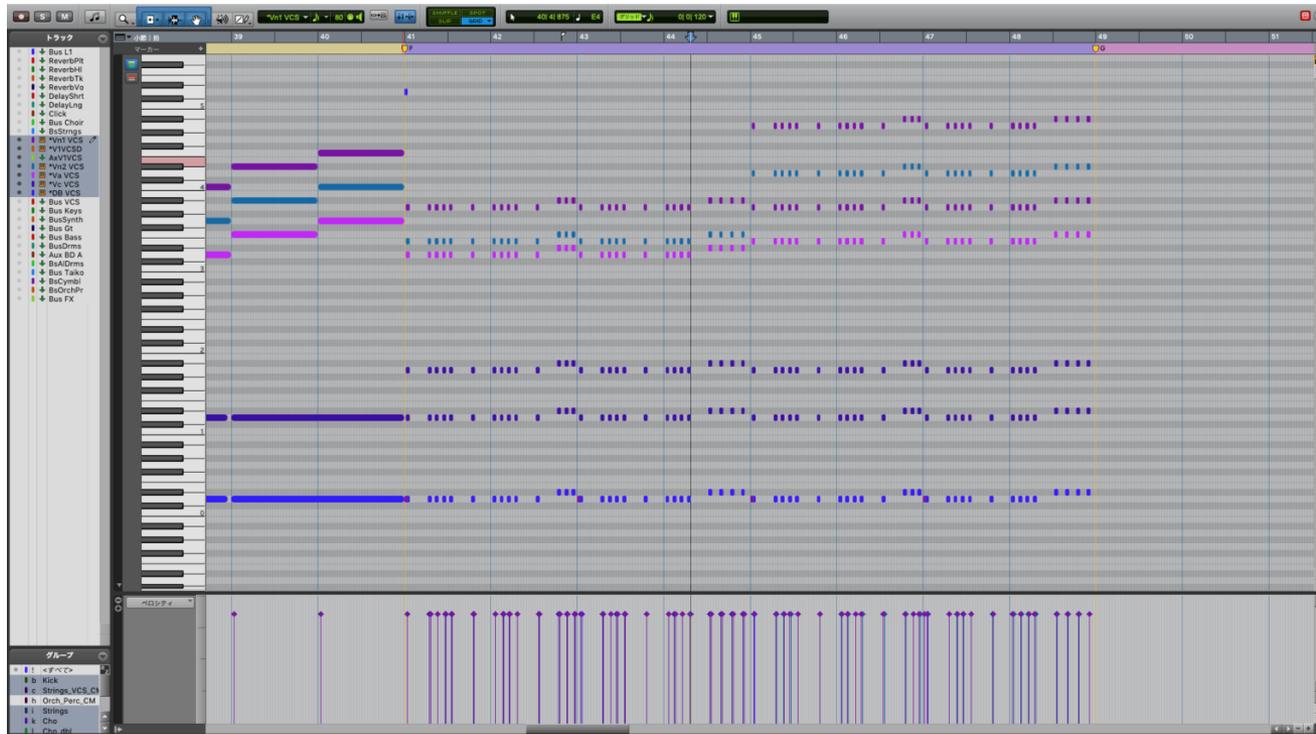
Vc. *f* *ff*

# 刻み系アレンジの種類



## 刻み系アレンジの種類②:コード型

リフ型に比べて、より伴奏的なアレンジスタイル。ストリングス全体でコードを形成しながらバックングのリズムを刻むことで、はっきりとしたリズム感が得られる。



# 刻み系アレンジの 応用テクニック

# 刻み系アレンジの応用①:コードを形成しながらリフを演奏

コードを形成しながらリフを演奏するパターン。ピアノやギターのリフと同じような感覚で作ってOK。(ただし、同時に鳴らせる音数はストリングスの基本に準拠。)

